

# はるか わたり歴史通信「悠」

わたりちょうりつきょうどしりょうかん  
巨理町立郷土資料館

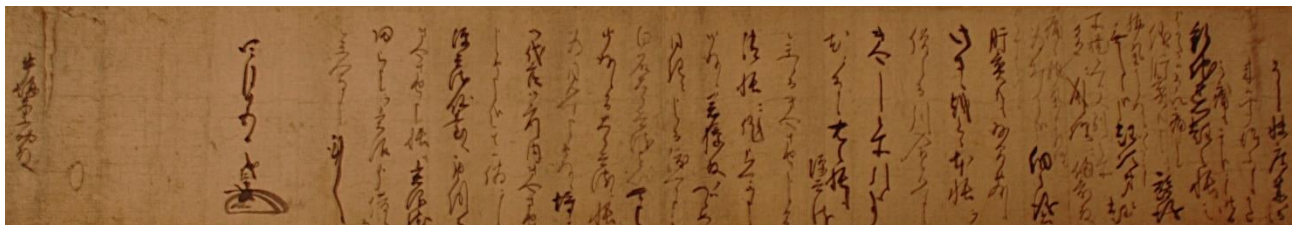
## 『成実記』を知る展示を開催中です！

10月12日(土)から11月30日(土)まで、企画展示室で『巨理町史資料編第3集 成実記』刊行記念展「伊達成実が遺した伊達家の記録～『成実記』を読む～」を開催しています。巨理伊達家の初代巨理領主である伊達成実が著したとされている『成実記』という貴重な歴史資料について知り、また、成実の新たな一面について理解を深める機会となっています。

永禄11年(1568)、成実(せいじつ)は伊達実元(いだしげね)の嫡男(ちやくなん)として大森城(おおもりじょう) (福島県福島市)で生まれました。実元(みねもと)から家督(かどく)を譲(ゆづ)られてからは、1歳(さい)上の従兄弟(じゆうけい)にあたる伊達氏(いだし)17代当主(とうしゅ)政宗(まさむね)を支え、武勇(ぶゆう)・知略(ちりやく)を駆使(くし)して伊達氏(いだし)のために貢献(こうけん)しました。晩年(ばんねん)の成実(せいじつ)は政宗(まさむね)の事績(じじきん)について覚書(かくしよ)をまとめていて、この覚書(かくしよ)が『成実記』の下地(かじ)になったと考えられています。政宗(まさむね)に近い立場(たてまわ)の人間(にんげん)でしか知りえない内容(ないよう)が記録(きろく)されているなど、伊達氏(いだし)や戦国時代(せんごくじだい)の東北地方(とうほくちほう)を研究(けんきゅう)するうえで貴重な歴史資料(れきししりょう)となっています。

展示(しんし)では、成実(せいじつ)や巨理伊達家(こりいだしけ)、『成実記』(せいじつき)からたどる伊達氏(いだし)の戦い(いくさ)の歴史(れきし)の振り返り(ひざりかえり)、現在(いま)も巨理(こり)の人々(ひと)に親しまれる「巨理領主成実(こりりょうしゅせいじつ)」などを紹介(しょうかい)していて、『成実記』(せいじつき)の写本(しゃほん)、成実(せいじつ)に宛てた政宗(まさむね)の書状(しよじょう)、家臣(かじん)に宛てた成実(せいじつ)の書状(しよじょう)などを展示(しんし)しています。ぜひご観覧(かんらん)ください！

※観覧料は無料です



▲展示資料の一つである家臣宛ての伊達成実書状

追伸部分に興味深いことが書かれているので、じっくりと解説を読んでみてください

## 講演会で『成実記』について知ろう！

『巨理町史資料編第3集 成実記』の刊行を記念した講演会を開講します。みなさまのご参加をお待ちしています。

テーマ「成実記の時代—伊達政宗の生涯とその記録—」

- 講師 菅野 正道 氏(『巨理町史資料編第3集 成実記』解説執筆・編集者、元仙台市史編さん室長)
- 日時 11月3日(日・祝) 13:30~15:30(開場13:00~)
- 会場 図書館 視聴覚ホール(悠里館3階)
- 定員 定員100人(要申込)、無料
- 申込 10月20日(日)締切

追加申込み受付中ですので、受講を希望の方は電話(34-8701)にてお問合せください

次号の「わたり歴史通信『悠』」は、1月に発行する予定です。  
郷土資料館、図書館、各公共施設の窓口に置きますのでご覧ください。

# 悠里館ギャラリー展示開催しました！

8月1日(木)から9月26日(木)まで、亶理駅と悠里館を結ぶ連絡通路の悠里館ギャラリーで郷土資料館開館30周年記念「悠里館に集う我らが将一政宗・成実・小十郎」展を開催しました。この展示では、イラストレーターや奥州・仙台 おもてなし集団 伊達武将隊のメンバーが描いた伊達政宗・伊達成実・片倉景綱らのイラストや紙甲冑を展示しました。

8月末までだった展示期間は好評により9月まで延長になり、多くの方々に作品を見ていただきました。

展示されたイラストのうち数点は、「伊達成実が遺した伊達家の記録～『成実記』を読む～」でも展示しています。見られなかった方は、この機会にぜひご覧ください！



## 『成実記』を読んでみよう！（3）

『成実記』特集の第3回目は、天正17年(1589)の摺上原の戦い後から、慶長7年(1602)までの伊達氏の動きについて紹介します。

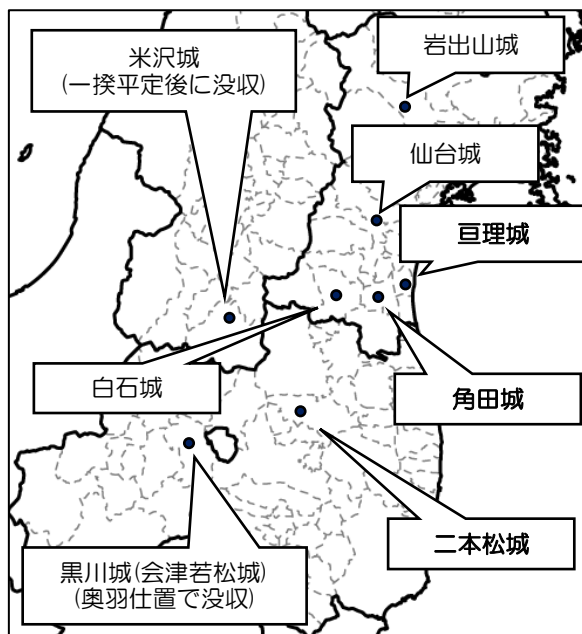
※内容は『正宗記』（郷土資料館所蔵）を参考にしています。

### 伊達氏が大きく変わった時代

摺上原の戦いでの勝利により南東北最大勢力となった伊達氏でしたが、天下統一を目前に控えていた豊臣秀吉に服属することを選択し、天正18年、伊達政宗は秀吉に面会するため小田原(神奈川県小田原市)に参陣しました。その後の処置により、伊達氏は手に入れたばかりの会津領を失いました(奥羽仕置)。

同年、奥羽仕置により葛西・大崎氏の領地(宮城県北部から岩手県南部)を任された新領主の木村吉清に対し、旧葛西・大崎家臣が反乱を起こします(葛西大崎一揆)。政宗は一揆を鎮めようと動きませんが、政宗の家臣が豊臣方に「政宗が一揆を扇動した」と訴えたため、政宗は京都に上り弁明に追われました。主張は認められたものの、一揆平定後には長い間治めていた伊達郡(福島県伊達市・桑折町など)や長井郡(山形県米沢市・長井市など)を没収され、葛西・大崎領に移動となりました。

以降も伊達氏は豊臣政権の戦に参戦し、文禄の役(1592～1593年)では朝鮮半島に出兵しました。慶長3年(1598)に秀吉が亡くなると、徳川家康が覇権を握ろうと動き、慶長5年には家康により会津の上杉氏討伐が命令され、政宗は信夫口(福島県中通り)からの上杉領侵攻を命じられました。伊達軍は侵攻の際に通る刈田郡の拠点である白石城を攻めて降伏させました(白石城の戦い)。同年、関ヶ原の戦いで家康率いる東軍が勝利した後、家康から許可を得た政宗は、慶長6年に居城を岩出山から仙台に移し、政宗を藩祖とする仙台藩が誕生しました。



▲現在の山形・宮城・福島県における各地の城の位置(太字の城は成実が城主を務めた城)

# 伊達成実の活躍（3）

前頁では、『成実記』をとおして、天正17年(1589)から慶長7年(1602)までの伊達氏の動きをたどりましたが、こちらではその間の伊達成実の様子に注目します。

## もしもの場合の当主・成実!?

天正18年、豊臣秀吉に服属するという苦渋の決断を下した伊達政宗は、秀吉のいる小田原に参陣します。このとき、政宗は成実を同行させず伊達領内に残しました。これは、政宗に何かあった場合(処刑されるなど)は、成実が伊達家の当主の座に就いて家中をまとめるためだったと考えられています。葛西大崎一揆の弁明のため政宗が上洛した際も、成実が政宗の留守を預かりました。伊達家中における成実の存在の大きさがわかります。

人物三紹介【片倉景綱(一五五七—一六一五) 伊達氏重臣。成実と共に伊達政宗を支えた。成実とは居城の繋がりが多く(両者とも二本松城・大森城・巨理城主となる)、領地防衛の観点から政宗が二人を重要視していたことがうかがえる。

## 激動の時代を生きた成実

豊臣秀吉に服属してからの伊達氏は大きな変革に巻き込まれましたが、それは成実も例外ではありませんでした。葛西大崎一揆の鎮圧後に伊達氏は由緒ある領地を没収されました。この中には当時成実が治めていた二本松も含まれていたため、成実は角田(角田市)へ移ったほか、他の家臣も移動を余儀なくされました(片倉景綱は大森(福島市)から巨理へ、巨理重宗は巨理から涌谷(涌谷町)へ移動)。

角田に移動してからの成実は、引き続き伊達家のために力を尽くしましたが、文禄4年(1595)前後に、突然伊達家を出奔します。理由は明らかにはなっていませんが、この時期の伊達家は豊臣政権からの指示でさまざまな要求をされており、それに対する不満が溜まっていた可能性が考えられます。成実の他にも茂庭綱元・遠藤宗信・国分盛重などの重臣たちが政宗と衝突しており、政宗・家臣両方にとって苦しい時期だったことがうかがえます。

こうして伊達家を離れた成実ですが、慶長5年には片倉景綱から戻るよう説得され、伊達家に帰参し白石城の戦いにも参戦しました。慶長7年、政宗は景綱を白石城主に、景綱が治めていた巨理の領主に成実を命じます。仙台藩における巨理は、相馬藩との境目に位置する防衛上重要な拠点であり、出奔がありながらも政宗が成実を信頼していたことがわかります。

## 三十三間堂官衙遺跡トピック vol3



今回は、史跡のシンボル「礎石」についてご紹介します。

史跡には、郡衙(郡役所)建物の柱を支えた礎石が残っています。特に米蔵が立ち並んでいた正倉院の倉庫跡にはたくさんあり、中心施設があった郡庁院や周りの建物跡にもいくつもあります。石材は安山岩の自然石が使われていて、上面を少し整形したものもあります。正倉院では、積土で基壇をつくってから浅い穴を掘り、高さや安定を調整するために根石(小さな石)を敷いて礎石を置きました。

正倉院には少なくとも10棟の礎石建物があり、現在よくわかるのは2棟分ですが、草むらの中や墓地の裏でも見ることができます。これらの石をこれからも保存し、見やすくしていくための整備を進めています。



▲礎石と根石



# 10月～12月の郷土資料館イベント情報

- 🍎 10/12・13、11/9・10、12/14・15【わたり復興の歩み上映会】 9:00～16:30  
東日本大震災からの巨理町復興の様子を映像にまとめた「わたり復興の歩み」(約16分間)の上映会を行います。
- 🍎 10/12～11/30【伊達成実が遺した伊達家の記録～『成実記』を読む～】  
『成実記』という貴重な歴史資料と著者である成実についての展示を開催中です。  
展示期間中は、『巨理町史資料編第3集 成実記』が特別価格でお求めいただけます！
- 🍎 10/27【ワークショップ ほどける馬っこプロジェクト】 13:00～15:00  
巨理町地域おこし協力隊の黒田あすみさんと共催事業。講師に美術家のカ石咲さんを迎え、巨理に伝わる七夕馬の風習を学びながら、簡単にほどけて防災用品に使われるテトロン(ポリエステル)糸でできた紐を骨組みに巻き付けて馬っこを作ります。
- 🍎 11/3【オープンミュージアム】 9:00～16:30  
郷土資料館を特別開館し、さまざまなイベントを行います。巨理町指定無形民俗文化財の牛袋法印神楽と巨理枅取り舞の演舞会(10:30～11:30)をはじめ、巨理町の昭和写真展やチャレンジクイズなど、普段は見ることや体験することができないものばかりです。
- 🍎 11/3【記念講演会・ものしり大学院】 13:30～15:30  
『巨理町史資料編第3集 成実記』の刊行を記念して開催します。講師に元仙台市史編さん室菅野正道さんを迎え、『成実記』をとおした伊達政宗の生涯についてお話いただきます。



※詳しくは町HP・LINE・広報でお知らせします

## 来館者報告

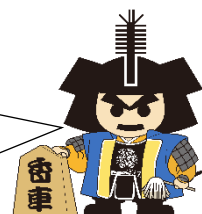
### 常設展

R6.7.2～9.29

●開館日数…73日間

●観覧者数…3,046人  
(1日平均42人)

ご観覧いただき、誠にありがとうございます！  
はらこめしシーズン、お食事と合わせてぜひ郷土資料館にも足をお運びください！



郷土資料館  
イメージキャラクター  
しげざねくん



「〇〇の秋」というフレーズがありますが、みなさんにとって「〇〇」には何が入るでしょうか。私としては、「芸術の秋」ということで、美術館や博物館施設に積極的に足を運んで企画展を観覧したり、音楽を鑑賞したりしてみたい、と思う今日この頃です。郷土資料館では、伊達成実や『成実記』についてみなさんの理解が深まる事業を展開していますので、成実が著した作品に触れる芸術の秋をおすすめしたいですね！この秋も、郷土資料館をぜひご利用ください。

巨理町立郷土資料館利用案内

〒989-2351 宮城県巨理郡巨理町字西郷140

Tel : 0223-34-8701 E-mail : kyoudo@town.watari.miyagi.jp

\*開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで) \*観覧料：無料 ※特別展等有料の場合あり

